

演題で、地域特性を考慮した高齢者の居住地移動と健康状態の関連についての研究発表を行い、ワークショップ組織者をはじめとする参加者から有意義なコメントを得るとともに、今後の共同研究に向けた情報交換を行った。

なお、本研究部会の次回ワークショップは、2015年9月にチェコのプラハ経済大学で開催される予定である。(中川雅貴 記)

## 日本地理学会2014年秋季学術大会

日本地理学会2014年秋季学術大会が2014年9月20～22日（22日は巡検のみ）に富山大学五福キャンパス（富山県富山市）において開催された。一般発表94件、ポスター発表45件のほか、9つのシンポジウムで59件の発表があり、市町村合併に関するシンポジウムで富山市長が講演するなど開催地域の特徴が活かされた大会であった。地域人口関連分野では下記の報告が行われ、活発な質疑がなされた。

- 「2009年新型インフルエンザ A (H1N1) pdm の流行とローカルな伝播過程」  
.....荒堀智彦（首都大・院）
- 「2010年国勢調査の人口移動集計における都道府県間移動数の補正」  
.....小池司朗（国立社会保障・人口問題研）
- 「老衰死亡率の季節変化」.....北島晴美（信州大）
- 「東京大都市圏郊外における子育て世帯の居住地移動—川崎市麻生区の事例」  
.....佐藤 将（横浜市立大・院）
- 「東京・京阪神大都市圏における若年未婚単身世帯のコーホート分析—1990～2010年」  
.....桐村 喬（東京大）
- 「地域人口の将来推計における出生指標選択の影響—都道府県別の分析」  
.....山内昌和（国立社会保障・人口問題研）
- 「チェルノブイリ原発事故被災地の人口変化—福島復興に向けて」  
.....花岡和聖（東北大）・カラチョニイ デイヴィッド（ハンガリー科学アカデミー）  
(山内昌和 記)

## 健康寿命国際ワークショップ 総合健康指標の国際協調に向けて

平成26年10月14日（火）13:30から、日本大学桜門会館にて、「健康寿命国際ワークショップ 総合健康指標の国際協調に向けて」が開催された。この国際ワークショップは、厚生労働科学研究（厚生労働科学特別研究事業）「健康寿命の国内と海外の現状把握と分析評価に関する研究班」の主催により、研究者・行政関係者・その他健康寿命に関心のある者を対象に行われたものである。また、この国際ワークショップと連携する形で、学術ワークショップが翌日の10月15日（水）、さらに関係者等によるミーティングが14日（火）の午前、16日（木）の午前に開催された。当研究所からは、金子隆一副所長、林玲子国際関係部長、別府志海情報調査分析部第2室長と筆者が参加した。

14日（火）午前の国際ワークショップでは、最初にコーディネーターの齋藤安彦日本大学教授の挨拶に続き、主に政策担当者からの観点として、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課江副副総長がん対策推進官より「日本の健康増進政策における健康寿命の重要性」、また、内閣官房健康・医療戦略推

進本部小沼士郎企画官より「国際保健外交戦略・日本再興戦略における健康寿命の意義」との報告がなされた。続いて、学術分野における海外の取組として、フランス国立衛生医学研究所 Jean-Marie Robine 氏より「国際健康寿命ネットワーク (REVES) の取組」、ベルギー公衆衛生研究所 Herman Van Oyen 氏より「健康・平均寿命情報システムに関する欧州共同事業 (JA EHLEIS) の取組」、アメリカ保健統計センター Mitchell Loeb 氏より「Washington Group による健康指標開発の取組」が報告され、最後に、浜松医科大学健康社会医学講座尾島俊之教授から、「日本における健康寿命研究」との報告があった。また、15日の学術ワークショップでは、「健康寿命に関する分析方法」、「健康寿命の国際比較性の向上に向けて」、「新しい総合健康指標」、「総合討論とまとめ」という4つのセッションが設けられ、学術的な観点からの報告及び討論が行われた。(石井 太 記)

## 都市持続再生国際アライアンス第一回国際会議

2014年10月24日(金)～27日(月)の日程で、千葉・柏市の柏の葉地域にて、都市持続再生国際アライアンス (International Alliance for Sustainable Urbanization and Regeneration : IASUR) の第一回国際会議が開催された。このアライアンスは、東京大学都市持続再生研究センター (cSUR) が過去10年間にわたり実施した都市持続再生プロジェクトを通じて構築された国際ネットワークを組織化したものである。国際会議には、中国/台湾、韓国、フィリピン、タイ、インドネシア、マレーシア、ナイジェリアなどから、多数の研究者が参加し、都市持続再生に関わる基調講演・セッションが行われた。筆者(国際関係部長林玲子)は「都市の女性化—人口減少社会の持続可能性」というタイトルで発表を行った。同じセッションでは、米英の工業都市の人口減少と都市再生施策や、工業都市の盛衰の日米韓比較といった発表が行われており、日本における女性の都市への移動にも、都市の産業構造による違いがあるのでは、という指摘があるなど、学際領域ならではの議論が繰り広げられた。(林 玲子 記)

## 日本人口学会2014年度・第1回東日本地域部会

日本人口学会2014年度第1回東日本地域部会は、2014年10月25日(土)、札幌市立大学サテライトキャンパス(札幌市)において開催された。本研究所の職員が多く参加し、次の研究報告を行った。

- 「非大都市圏出生者の移動パターン—出生県への帰還移動を中心として—」  
..... 貴志匡博 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 「人口学的要因からみた地域人口の変化と将来像」  
..... 山内昌和・小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)  
江崎雄司 (専修大学)
- 「死亡率の地域格差が将来人口推計の精度に及ぼす影響」  
..... 菅桂太 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 「地域メッシュ別にみた自然社会別人口増減—東京大都市圏における1980～2010年の分析—」  
..... 小池司朗 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 「大都市圏居住者の転居可能性」 ..... 清水昌人 (国立社会保障・人口問題研究所)
- 「近年における各国の世帯数の将来推計」 ..... 鈴木透 (国立社会保障・人口問題研究所)